

編集後記

本年は平成から令和へと元号が変わり、大きな節目を迎える年となりました。聖泉大学看護学部も令和のごとく香しく花開くよう、看護に対する思いも新たにしております。

さてこの幕開けの年もまた「聖泉看護学研究」を発刊することができました。平成24年の第1巻からこの9巻に至るまで、学術誌を生み育てて下さった先生方・関係者の方々のご尽力あってこそその発刊であり、今回ご投稿いただきました皆様のおかげと感謝しております。本当にありがとうございました。

第9巻では原著1編、実践研究2編、資料6編、その他1編の計10編を掲載しております。今回お寄せいただいたテーマの中には、教育者および看護者として、臨床の看護師や他職種と共に向き合わなければならない課題、病院の中の看護に留まらず、生活者として回復するまでを支えることや、その人らしく人生を終える在り方についての課題を示していただいています。是非ご一読いただき、この学術誌をもって様々な場面でディスカッションし活用していただけたらと思います。

学術誌作成にあたり、査読の諸先生方にはお忙しい中温かく丁寧なご指導を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。また、急なお願いにも関わらず英文校正を快諾していただきました竹村先生、編集委員会の皆様、ありがとうございました。

本年度からホームページからの投稿申し込みが開始となり、学外からの投稿もしやすくなりました。看護の在り方も、看護を受けられる方も多様性が顕在化されている昨今、本学が目指す看護・教育の研究課題解決に向けて、他の学問領域との協働が求められている現状を受けてのことでもあります。今後一層多くの皆さまからご支援いただきますよう、どうぞよろしくごお願い申し上げます。

委員長 安田千寿